

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立馬込小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱や器楽の活動では、児童同士での聴き合いを意識させることで、美しい音で演奏することができるようになった。
- ・グループでの音楽づくりを行うことで、互いの意見を共有して合意形成をしながら、まとまりのある音楽をつくることができた。
- ・鑑賞活動を充実させることで、より音楽への興味を引き出すことができた。

(2) 課題

- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能面において、得意か不得意かによる能力差が大きい。
- ・楽曲に対して思いや意図をもつことが難しい。
- ・一つの課題に対して、ねばり強く取り組むことに課題がみられる児童が多い。

2 授業改善のポイント（観点別）

・低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
楽しみながら歌や鍵盤ハーモニカに取り組めるようにする。低学年では、自分から声を出して歌うことや、鍵盤ハーモニカの基礎的な技能の習得を目指す。	音楽で表現をすることに対し、前向きに取り組めるようにする。身体で表現する活動を効果的に取り入れながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、表現したり音楽を聴いたりできるようにする。	楽しく音楽に関われるようにする。協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむ態度を育てる。

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽の用語や階名に関する知識を適宜指導し、定着させる。身に付けた知識を生かして、音楽の特徴を理解できるようにする。 器楽では、基本的な指遣いを何度も繰り返し扱い、技能の定着を目指す。	鑑賞教材では、様々な発想を広げて鑑賞できるようにする。児童の感性を豊かにしながら、音楽表現の楽しさを感じ取ることができるようにする。	3年生ではリコーダーが始まるため、粘り強く取り組めるように指導する。児童全員が理解できるように指導を行い、個々の能力差を埋め、意欲的に取り組む児童を育てる。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱教材では、楽曲の背景を理解させ、歌詞と音楽の特徴を結び付けられるようにする。また、合唱や合奏の経験を積んでおり、より難易度の高い教材に取り組ませる。少人数で歌う経験や、児童主体の練習などを行うことで、自信をもって表現できるようにする。	楽曲の背景を理解したうえで、どのような思いをもって表現したいかを考えさせる。友達との交流を通していろいろな意見に触れさせ、より深い学びにつなげる。	音楽表現に対して、主体的に、自信をもって取り組むことができる児童が多くいる。一方で、自信のなさから歌わない、すぐ諦めてしまう児童もいるため、個別に声をかけたり、スモールステップで課題を提示したりする。

